

これからも「安全」「健全」な経営に努めます

自己資本比率も国際統一基準を大きくクリア

自己資本比率 (連結)

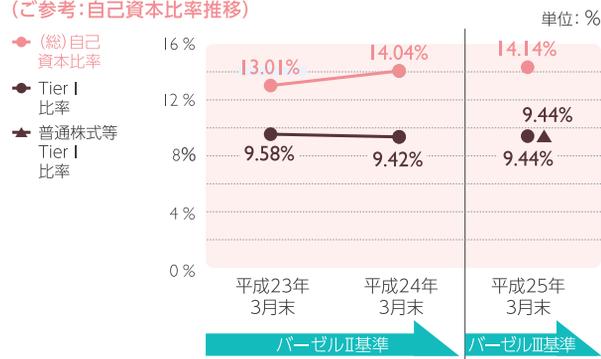
自己資本比率は、銀行の安全性、健全性を図る指標のひとつです。しがぎんのように海外に営業拠点を持つ銀行は、国際統一基準を満たしていなければなりません。しがぎんの自己資本比率は14.14%（バーゼルⅢ基準、平成25年3月末、連結ベース）と国際統一基準を大きくクリアしています。

平成25年3月末

	実績	最低所要比率
連結 総自己資本比率	14.14%	8.0%以上
同 Tier1比率	9.44%	4.5%以上
同 普通株式等Tier1比率	9.44%	3.5%以上

※平成25年3月末より、バーゼルⅢ基準による自己資本比率を算出しております。

(ご参考:自己資本比率推移)



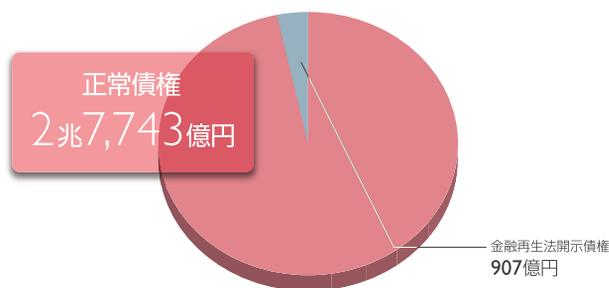
用語説明

自己資本比率

銀行の安全性、健全性を判断する基準のひとつに、自己資本比率があります。海外に支店を有する国際統一基準行では新たな自己資本比率規制（バーゼルⅢ）が平成25年3月期決算から段階的に導入され、各最低所要比率を満たす必要があります。

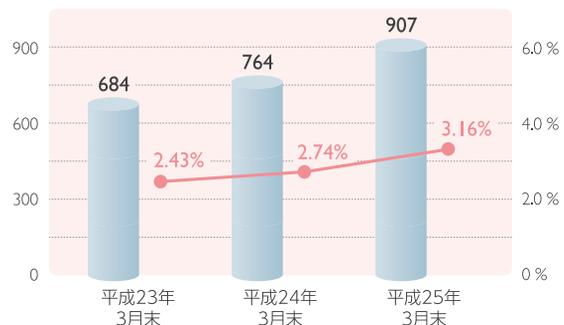
不良債権の状況

しがぎんの金融再生法に基づく開示債権の合計は907億円、総与信に占める不良債権比率は3.16%となりました。また、貸倒引当金や担保などによる保全率は75.20%です。



金融再生法開示債権

単位: 億円



用語説明

不良債権比率

貸出金等の総与信残高に占める不良債権の割合です。不良債権比率が低いほど、資産の質は高くなります。銀行ごとにその資産総額の規模が異なることから、この比率が銀行の健全性をみる指標の一つになります。

お知らせします、しがぎんの業績

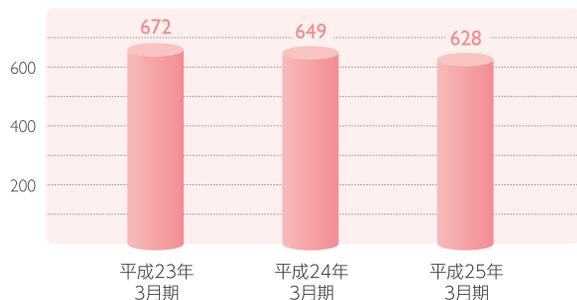
業績ハイライト

- 貸出金の期中平均残高は増加したものの、貸出金利回りが低下した結果、業務粗利益は前期比21億円の減益となりました。

業務粗利益

銀行本来の業務（貸出業務、為替業務、有価証券運用など）から得た利益です。

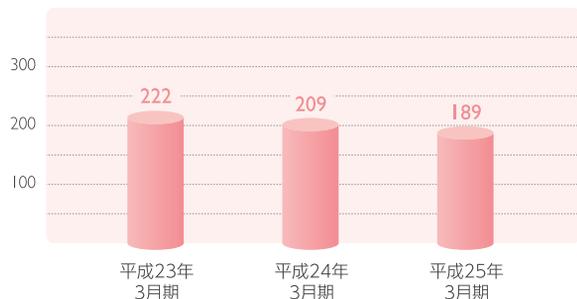
単位：億円



業務純益

一般企業でいう営業利益にあたります。
 $\text{業務純益} = \text{業務粗利益} - \text{経費 (人件費、物件費等)} - \text{一般貸倒引当金繰入額}$

単位：億円

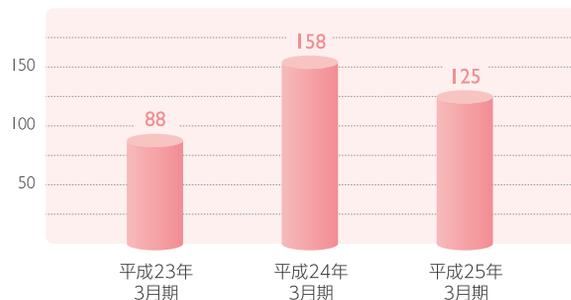


- 物件費を中心とする経費の削減に努めたものの、与信コストの増加、株式関係損益の悪化により経常利益は前期比32億円減益の125億円、当期純利益も25億円減益の48億円となりました。

経常利益

業務純益から株式の売却損益や不良債権処理に関わる費用などをプラス・マイナスした利益です。

単位：億円



当期純利益

経常利益から法人税や事業税等を差し引いた最終的な当期の利益です。

単位：億円

